2024年度　通常総会　報告

6月2日に富山市総合福祉センターにて2024年度の総会を開催しました。冒頭、理事長から長年にわたり当法人の活動を支えていただいた吉田樹さんが２月に急逝された旨の報告があり参加者一同でご逝去を悼みました。当日の参加状況は正会員12名中、会場参加7名、オンライン参加3名、書面議決1名、欠席1名でした。議題は2023年度の活動報告・決算、2024年度の活動予定と予算、法人のこれからを考え法人（事務局）の体制強化についての議題が出され全ての議題について審議し可決されました。

****

総会終了後、引き続き『能登半島支援の現状と課題』というテーマで、被災地支援を続けておられる金沢の「ひまわり教室」の林さんと「地域支援センターポレポレ」の沼澤さんからお話を伺いました。

まず「ひまわり教室」の林さんからは、1月3日に職員3名で「ひまわり教室」に備蓄してあった水を羽咋市にある施設まで届けに行き、さらに1月8日に七尾市の施設等に支援物資を届けましたが、1月上旬に連絡がとれたのは金沢市寄りの所だけで1月中旬まで全体の被害状況が見えなかったそうです。1月20日頃になると志賀町・珠洲市まで北上可能となったので必要な物資を細かく聞き取り持って行ったそうです。（オムツ、衣類、水トイレ、身体拭き、ドライシャンプー、カセットボンベ、食糧品）1月末頃から2月に入ると、ビーチボールや塗り絵、パズルといった娯楽的要素のある物資の希望が出てくるようになり、2月は頻繁に電話連絡をとって利用者同士の交流なども行っています。3月になると事業を再開する事業所が出てきたので販路拡大の課題があり「ひまわり教室」で商品を買い入れて販売する支援を行いフェアトレードの会場で販売したそうです。現在は他の施設と連携しながら活動を継続していることや「ゆめ風基金」と連絡をとって毎週火曜定期的にZoomで会議を行っていること、きょうされんやJDF（日本障害フォーラム）と連絡をとるようしているそうです。七尾市に活動の拠点がほしいとのことでした。被災した建物の修繕、物品関係にかかる費用は「ゆめ風基金」から出してもらっていて「ゆめ風基金」

のバックアップの力が大きいそうです。また、これまでなかった羽咋市より奥にある事業所とのつながりが今回の地震をきっかけとして出来たそうです。今後の活動として事業所の職員に体験談を聞く機会を交流会という形でもちたいということや写真をパネルにして見てもらい、金沢、白山、小松等で商品販売の場を持ちたいとのことでした。

続いて「地域支援センターポレポレ」の沼澤さんのお話。地震の翌日に事業所の利用者と相談者の安否確認を行い、その後は現在まで「ゆめ風基金加賀」と一緒に活動しておられます。入浴支援を行っているそうで、それは一般的な浴場は長蛇の列で障害のある人が入るのは難しく、また施設の風呂にしても１団体３０分と言われると少ない職員で全員入浴するのは無理という状況があり行っているそうです。2月からボランティア活動の拠点となっている中島町のNGO協働センターに物資を届けているそうですが、3月には七尾市等の自治体が商店の再開や人手不足を理由に支援物資の受入れを中止したため、物資の要望があっても届けられていません。「ゆめ風基金」の支援で建物の修繕や備品の買い替え等ができたところもあるそうです。4月からは各事業所の要望を電話や訪問で聞き取りしているそうです。今後七尾市あたりに拠点があるといいということで6月の計画としてJDFが拠点づくりをすることになりました。職員不足の施設への人的支援も行うことになっています。1.5次避難所に保健師さん等と聞き取りに行ったところ、そこにいる高齢者の中には精神・身体の障害を持つ人もいて5月末で閉鎖といわれても金銭的理由から施設へのマッチングが難しい人もおり、退出できない例もあるそうです。またポレポレさんが食品メーカーからもらった煮豆等をNGO協働センターに届けるとすぐになくなるそうで、それはまだ家の片付けに追われて食事の支度もままならない家庭が多いからだそうです。七尾市の和倉温泉の存在は大きく、それまでの公園や施設の清掃の仕事がなくなり、施設の利用者・職員が減っている状況があります。行政には事業者が何を要望しているのかきちんと聞きとりしてほしいことや、珠洲市の施設ではまだトイレが使えない所もあり凝固剤が必要と言われ落差を感じているそうです。今後は現地の人とワークショップができたら良いということや、石川県ばかりクローズアップされているけれど富山や新潟でも大変な地域があるだろうから、その情報もほしいと話されていました。　（まとめ　田中）